

開催報告

第10回 家活グランプリ
結果発表！

J Aを核とした本・支店協同活動や組合員組織活動の活性化、生活・地域・文化の振興に向けて、J A職員が実践している「家の光三誌」の活用方を募集する本グランプリ。今回も全国からたくさんのアイデアが寄せられました。

北川太一（摂南大学 特任教授・審査委員長）、佐久間幸子（家の光専門講師）、木下春雄（家の光協会 代表理事専務）の各審査委員（敬称略）による厳正な審査の結果、入選者が決定しました。

審査結果

最優秀賞

「『家の光』をもっと身近に」

岐阜県J Aいび川 野原 朋美さん

優秀賞

「家活でみんなの笑顔の種まきを🌱」

青森県J A津軽みらい 村上 紀美子さん

「家の光でホップ(読んで)・ステップ(活用して)・ジャンプ(地域の輪!!!)」

福島県J Aふくしま未来 吉田 桃子さん

佳作

「女性部実態調査で“意欲を尊重する”「家活」へ」

岩手県J Aいわて花巻 中村 美冴さん

「せっかくやるなら！」

神奈川県J Aあつぎ 中村 由記さん

「『家の光』と今日も行く！」

岡山県J A晴れの国岡山 長尾 初季さん

「家活」はJAにとって重要な「組織基盤の強化」につながると考えられる

審査委員長 北川太一

「家活」、つまり「家の光三誌」を活用しながら、JA女性組織はもちろん、組合員と役職員、地域の人たちとのつながりをつくる活動は、いま、JAにとって重要な「組織基盤の強化」につながると考えられます。

最優秀賞の野原朋美さん（JAいび川）は、女性部公式LINEに『家の光』の感想を手書きのPOP

にして発信し、農産物直売所や「Café 笑味ちゃん」を通じた情報発信に『家の光』を活用して、活動の参加者や購読者拡大につなげました。優秀賞の村上紀美子さん（JA津軽みらい）は、共済部署と連携することで、「ちゃぐりんフェスタ」をJA主体のイベントに発展させ、女性部活動の活性化と、購読数の目標を達成しました。同じく優秀賞の吉田桃子さん（JAふくしま未来）は、SDGsの学習に始まる子ども食堂や、女性大学講座などで『家の光』を活用し、JAの「地域支援活動コンクール」で、活動内容を共有しました。

厳正な審査の結果、各賞を決定しましたが、いずれも甲乙つけがたい力作ぞろい、惜しくも今回の選に漏れた作品からも多くのヒントが得られました。こうした実践事例にも学びながら、「家活」の輪がますます広がることを願っています。



審査委員のみなさん。左から、北川審査委員長、佐久間審査委員、木下審査委員

最優秀賞受賞作品は『家の光』2026年9月号に掲載予定です。また家活グランプリは今回で募集を終了いたします。